

【特別寄稿・投稿】

【特別寄稿・投稿】

日本大学体操部 門脇 春男 監督(昭和26年土木科卒)の足跡

# 日本大学体操部 門脇 春男 監督(昭和26年土木科卒)の足跡

門脇監督は昭和6年3月28日(1931年)に父「門脇政之助」・母「かの」の三男三女の次男として誕生し、春に生まれた男の子だったので春男と命名された。国民学校初等科(後の湊北小学校)・高等科(後の土崎中学校)・秋田工業高校土木科を経て早稲田大学理工学部を卒業後、日本大学文理学部に勤務した。後にその日本大学で体操部が創立した時に監督に就任した。その後、日本体操界で数々の活躍をした。



門脇 春男 氏 (昭和26年土木科卒)

## ◆秋田工業学校入学

昭和20年秋田工業学校(後の秋田工業高校)の入学試験の実技で鉄棒の蹴上がりをやった時に、試験官の武田兼治先生から「君はうまい、体操部に入れ」と言われて入部した。秋田工業に入学した当初は太平洋戦争の末期で、本土決戦も予想され授業も無い状況下で、上級生は小坂鉱山・茨島の軍需工場へ、1~2年生は荒地地や山林開墾の勤労奉仕をした。雨が降れば学校で授業をし、その放課後に部活動を行った。14歳の夏の昭和20年8月14日夜、午後10時から4時間にわたり土崎はB29によって大空襲を受け、町全体が地獄のような恐怖と焼夷弾の騒音と炎と化し、その中を逃げ回り「九死の一生」の目にあった。19歳の長兄は霞ヶ浦飛行場で、一週間後に特攻命令が出ていたが終戦で助かった。翌日の玉音放送で終戦(敗戦)となり、日本はこれからどうなるかと思った。

秋田工業には、昭和23年の学制改革で昭和20年~26年の6年間在籍した。昭和21年から始まった国体の体操競技に、昭和24年から「つり輪」「あん馬」「平行棒」が高校でも採用されたので、洋風建築体操場の一角に体操部の建築科の先輩がつり輪を設置した。輪は木目でなく金属を丸くしたものだ。あん馬は杉丸太を切って作った手作りであった。ポメルは鉄パイプを曲げ、脚は機械科の実習工場で作成した。ポメルを握って脚を左右に振ったら、こすれて膝の皮膚が赤くなってしまい、ランドセルの革を馬体部分に貼付けた。平行棒は杉の木で秋工建築科の先生と体操部部員の合作で作製したが、3ヶ月後弾力性に優れた桜木製を3万円で購入した。中村久次郎校長が費用の工面をしてくれたが、これは宿敵能代工高に勝ちたい一心だったからと思われる。



昭和12年 秋田工業学校体操部全国優勝

## ◎秋田工業時代の競技成績

- 1)第4回全県大会で個人総合5位
- 2)第5回全県大会個人総合3位
- 3)横浜インターハイで団体総合2位

## ◆早稲田大学理工学部へ入学

昭和26年4月に早稲田大学に入学し、体操競技を継続した。

## ◎早稲田大学での競技成績

- 1)第5回横浜インカレ:団体チームで出場:団体総合優勝
- 2)第6回奈良インカレ:団体チームで参加:団体総合2位
- 3)第4回県民大会:一般男子部門で総合4位
- 4)第9回札幌国民大会で一般男子として出場
- 5)第8回横浜インカレ:主将として出場し団体3位を獲得

## ◆日本大学に勤務

早稲田大学を卒業後、日本体操協会の近藤天会長の推薦で日本大学文理学部に勤務した。日本大学では昭和31年に、秋葉安太郎部長・平野平三顧問・門脇監督と男子部員2年生7名、1年生13名で体操部を創立した。練習は飛行機の格納庫として使われた体育館をバスケット部と共用して使用した。日本大学では有能な選手に直接会って勧誘し、また辣腕剛腕の指導で成果を上げていった。秋田県出身の有能な選手として、

- 1)昭和32年4月入学の平川文雄(能代)・芳尾明(秋工)
- 2)昭和33年4月入学の能代出身の辻健一・金子正史・三田久と、秋工出身の斉藤正弘・米田賢一

などが入部した。この頃から日大体操部の公用語は秋田弁となった。1959年(昭和34年)の全日本学生選手権大会(インカレ)の会場は、秋田県立山王体育館で行われた。そこで日本大学体操部は男子の部で団体総合3位と好成績を収めた。試合終了後、門脇監督からインカレの反省会と慰労会を兼ねて、監督の実家から近い土崎港の日本海で泳ぐ事になった。この時、私は小学4年生で参加しました。海水浴後の慰労会は門脇家で、心地良く冷えた生ビールをグラスに並々注いで皆で乾杯! 食べて、飲み、語り、将棋で遊び、ウクレレで「ダイアナ♪」を歌っていた。

## ◆第1回世界学生体操競技選手権大会(昭和34年9月)

日本代表チームの監督として参加した。会場はモスクワ・レーニン中央スポーツパレスで、日本チームは団体総合2位の銀メダルを獲得した。主将渡辺(教育大OB)・三栗(教育大)・鶴見(日体大)・剣本(日体大)・川俣(明大)・辻(日大)のメンバーで合計10個(銀6・銅4)のメダルを獲得する大活躍をした。大会終了後の約1ヶ月間、イングランド・ノルウェー・デンマーク・西ドイツ・フランスとイタリアに遠征をした。門脇監督は、「海外で若手を貪欲に技術習得させ鍛える事ができて本当に良かった」と語っていた。この時代遠征費用が少なく、土崎中学校・久保田中学校・秋田工業高校や土崎国鉄グラウンドで模範演技をして遠征の費用とした。また遠征中の宿泊費用を節約するために日本大使館や各国の協会からの紹介によるホームステイをし、カメラや時計なども売却して遠征費用の足しとした。

日大体操部は創部3年目で2部校から1部校に駆け上がり、昭和34年に遠藤幸雄氏・曾我部和子氏を日大教員、選手兼コーチとして迎えると全国各地から有力選手が続々と入部をして、伝統校の早慶明を抑え、東京教育大・日体大と互角に勝負できるようになった。なお曾我部和子氏はメルボルン・ローマオリンピック出場

後に門脇監督と結婚した。

女子部についても、創部5年目の昭和36年からインカレなどで好成績を得ている。

## ◎日大体操部監督時代のインカレの活躍

- 1)昭和36年:女子:団体総合2位
- 2)昭和37年:女子:個人総合で渋谷多喜選手が優勝
- 3)昭和38年:女子:個人総合で下手美子選手が優勝
- 4)昭和41年:女子:念願の団体総合優勝
- 5)昭和33年~44年:男子:団体総合2位~3位
- 6)昭和37年:男女共:個人総合優勝

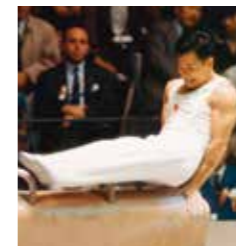
昭和37年の個人総合優勝で東京オリンピック大会に向けて大いに弾みとなった。

## ※遠藤幸雄選手

遠藤選手は母親を亡くして養護施設で育ち、秋田工業では小田原先生に、教育大学と日本大学の就職では門脇監督から物心両面の支援を得て練習環境が整い、全日本体操選手権大会で優勝して「世界のエンダー」と羽ばたく事になった。昭和35年の第17回ローマオリンピック・昭和39年の東京オリンピックと昭和43年のメキシコオリンピックに選手として出場した。東京オリンピックでは小野喬(たかし)選手や遠藤幸雄選手たちの秋田県出身同士として深い絆があったことが伺える。



遠藤幸雄選手



小野喬選手 昭和39年

## ◆日本体操界に功労した門脇監督

- 1)昭和31~44年までの14年間、日大体操部初代監督
- 2)昭和44年6月~平成元年までの21年間、国民体育大会体操競技委員
- 3)昭和50年6月~日本体操協会常任理事(協議担当)に就任

## ◎日本チーム監督・団長として参加

- 1)昭和45年11月6~14日:カナダ・ウィニペック市での建国100周年記念国際体操競技大会
- 2)昭和49年12月3~7日:カナダトロント市でのミルクミート国際体操競技大会
- 3)昭和51年3月24~27日:モスクワ・リガ国際体操競技会

\*\*\*\*\*

**株式会社 測地コンサルタント**  
 測量業登録/建設コンサルタント登録/補償コンサルタント登録/一級建築事務所  
 ISO 9001/14001/27001 認証取得

本社 〒011-0902 秋田県秋田市寺内堂ノ沢二丁目1番1号  
 TEL 018(846)2081 FAX 018(846)3661  
 URL http://www.sokuchi.ecnet.jp/  
 事業所 ・補償分室(秋田市牛島)・仙台支店・前橋営業所

取締役会長 **池田 昌憲** (昭和47年建築科卒)

地元密着の総合建設業

**彩光建設株式会社**  
 SATA Construction Group

代表取締役 下總 勉 (昭和47年建築科卒)

〒330-0842 埼玉県さいたま市大宮区浅間町2-257  
 電話 048-647-3155 FAX 048-647-3370  
 E-mail tsutomu-shimofusa@saikoukensetsu.co.jp